

感染爆発!! 第5波

医療は…

学校は… 市長、教育長に申し入れ懇談



第5波の感染爆発では、西宮市でも連日100人を超える新規陽性者の発生、育成センターや保育所、高齢者施設などでのクラスター発生、また8月30日現在、自宅療養者492人、入院待機者167人も存在するなど、大変な事態になっています。

日本共産党は8月19日には菅首相に対し「コロナから命を守るための緊急提案」を届け、また、25日「デルタ株による事態急変 学校の夏休み明けにあたっての緊急提案」を発表しました。

党西宮市会議員団は、この間とりまとめてきた「2022年度予算要望」を市長に提出しましたが、この機会をとらえ党の二つの提案を説明するとともに、西宮における感染状況や自宅療養者・待機者への対応、学校での対応等々について、市長、副市長、教育長らと懇談しました。懇談には上田幸子地区委員長、庄本けんじ地区生活相談室長も同席しました。

党議員団からは、①自宅療養、待機者への対応、②急増している子どもの感染をどう抑えるか、③西宮市の陽性率(検査数に対する陽性者の割合)が36%と異常に高く、保健所業務もひっ迫しているのでは、とまず質問。

市長は、それぞれ次のとおり発言しました。

- ① について … 第4波と違い60代70代の感染者が少なく、スマホが使える陽性者が多いため、毎日2度、血中酸素濃度と体温を送信してもらっている。数十人での往診体制もあるが、自宅療養や待機は決して望ましいことではない。県が病床を1237床→+30~40床、宿泊療養施設を12施設1723室→+2施設280室、増やせると聞いている。
- ② について … 保育士や教員などの希望する人にすでにワクチン優先接種を終えている。また、小中学校に消

毒などを担うスクールサポートスタッフ配置を9月議会で提案したが、前倒しで実施する。子どもの7割は家庭内感染であり、社会全体での抑制が必要だ。

- ③ について … 何とか対応できているが、陽性発生届けが出されて最初の保健所からの接触(ファーストコンタクト)が、3、4日後ということも多々ある。陽性者の追跡調査は十分できていないし、市中感染が相当広がっているため追跡調査の感染抑止に対する効力も薄い。濃厚接触者の特定が困難であれば、不安のある方には広くPCR検査をすべきという意見もその通りだとは思う。

その他、コロナ以外の疾病に対し十分な医療が提供できているのかとの問いには、第3波の際には、救急搬送の困難事例があったが、現在はほぼ安定して救急対応ができています、などのやり取りもありました。

<市内の感染状況等(8月28日現在)>

感染者累計	6,977人
入院	124人
重症	5人
中等症・軽症・無症状	118人
調査中	1人
宿泊療養	47人
自宅療養	544人
入院・療養等調整中	146人

* 7/23~8/26の 新規陽性者数 2,536人
 うち、18歳以下 " 537人(21.1%)
 10歳未満 " 204人(8.0%)

**「2022年度西宮市予算編成」に対し
 333項目の要望を提出**

日本共産党西宮市会議員団は、7月31日、市民団体や市民の皆さんから、市政に対する意見要望をお聞きする「予算要望懇談会」を開催。それらを取りまとめて333項目にわたる「2022年度西宮市当初予算編成に対する申し入れ書」を作成し、8月31日、市長に提出しました。新年度を待たずに実施すべきコロナ対策なども盛り込んでいます。

市議団ホームページに全文を掲載しています。また、入手ご希望の方は議員団までご一報ください。